

✓胆道がんの診断と治療

●一般講演

『当院における胆道疾患診療の現状について』

外科医長 寺田 卓郎

●特別講演

『胆道癌診療の最近の話題』

東京大学大学院 医学系研究科

消化器内科学 准教授

伊佐山 浩通 先生



外科医長

寺田 卓郎

(てらだ たくろう)

平成28年10月26日(水)に、福井商工会議所にて第5回地域連携カンファレンス『胆道がんの診断と治療』を開催しました。院外の先生方22名を含む計102名にご参加賜りました。大変多くの方にお集まりいただきまして心より御礼申し上げます。

まず当院より、“当院における胆道疾患診療の現状について”と題して悪性疾患(胆道癌)の診療を中心にお話いたしました。胆道癌とは胆道系の上皮から発生する癌腫であり、2013年の胆道癌による死亡者数は年間約1.8万人で臓器別死亡者数としては膵癌について第6位となっています。胆道癌は肝内胆管癌、肝門部領域胆管癌、胆嚢癌、遠位胆管癌、十二指腸乳頭部癌を含みますが、癌腫としての性質や進展様式は異なり多彩です。各部位別に進展様式や手術術式の立案、当院の手術成績などについてお話いたしました。胆道癌の診療では術前の診断(組織診断、進展度診断)から術前処置(内視鏡的減黄処置、術前門脈塞栓術など)、手術、病理組織学的検索などを要し非常に専門性が高い領域です。当院では消化器内科、外科、放射線科、病理医などの専門医が密に連携を保ち診療を行っております。

次に東京大学大学院医学系研究科消化器内科学准教授 伊佐山浩通先生より“胆道癌診療の最近の話題”と題した特別講演を賜りました。胆道癌の前癌病変、内視鏡診断、最新の抗癌剤治療、内視鏡的胆管ドレナージについての最新の知見を大変わかりやすくご講演をいただきました。内視鏡診断では経口胆道

鏡や管内超音波検査といった最新の診断手技を動画にてご呈示いただきました。経口胆道鏡では胆管内腔に発育する乳頭状の腫瘍が明瞭に描出され大変印象的でした。胆道癌に対する抗癌剤治療は、高い奏効率を期待できないのが現状です。胆道癌の予後改善を目指して、膵癌で保険適応となっているFOLFIRINOX療法や腎細胞癌治療薬であるアキシチニブ(チロシンキナーゼ阻害剤)を胆道癌に対する先進医療として研究をすすめておられ、今後のさらなる症例の蓄積とデータ解析結果が期待されます。胆道閉塞に対する胆道ドレナージでは、外科的なドレナージ術や経皮経肝的ドレナージ術(PTBD)に比べ内視鏡的経乳頭的胆道ドレナージ術(EBD)が低侵襲で安全性が高く現在では第一選択となっています。さらに最近では、EBD困難例に対する新しい内視鏡的ドレナージ術として、超音波内視鏡ガイド下胆道ドレナージ術(ESBD)が開発されました。今回、肝門部領域胆管癌による胆道狭窄に対してESBDにて胃内から肝内胆管を穿刺ドレナージした症例などをご呈示いただき大変衝撃的でした。今後、専用処置具の開発とともに更なる発展が期待される領域です。

伊佐山先生は胆道癌の予後改善、患者QOLの改善を目指し、様々な内視鏡器具や胆管ステントを自ら開発され製品化しておられます。また多くの患者様に恩恵があるよう自らの内視鏡手技をチームで共有し積極的に指導を行っておられます。

伊佐山先生の強い“意思”と“使命感”が感じられ大変貴重な講演でした。

地域連携カンファレンス

開催日時：年3回開催

最新の話題や症例などを様々なテーマで行っています。

奮ってご参加ください。